

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4070402559		
法人名	有限会社 たんぽぽヒューマンサービス		
事業所名	グループホーム たんぽぽの家		
所在地 (電話番号)	北九州市小倉北区中井5丁目6-28 (電 話) 093-571-1833		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年11月17日

【情報提供票より】(平成21年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 6人, 非常勤 9人, 常勤換算 8.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造二階建て
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 90,000 円	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 300 円 夕食 500 円 または1日当たり 1350 円	昼食 400 円 おやつ 150 円	

(4) 利用者の概要 (9月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉中井病院・渡辺内科・ヤマジ歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「たんぽぽの家」は、閑静な住宅街の中にあり、ホームの庭のような境川公園に隣接しており、入居者の方々は日常的に散歩に出掛け、また地域の方々との交流を育む場ともなっている。運営者の「地域の中での継続して生活できる環境づくり」という思いを大切に、開設5年目を迎えている。地域との交流・連携が充実しており、運営推進会議の詳細な議事録からは、その有意義な内容が伝わってくる。高校生の社会生活学習活動の場として、昨年1年間担当教諭との協議を重ね、今年から週2回ホームに訪れており、入居者のよき話し相手となっている。地域の独居高齢者支援に向けての働きかけや、認知症についての情報発信等の取り組みも始まっており、今後、地域における福祉拠点としての役割を担いながら、その取り組みが楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目	前科評価以降、個別のファイリングの工夫や充実、避難訓練への地域住民の参加・協力等、充実した取り組みが確認できる。また重度化や終末期に関する家族アンケートを実施し、関係者による検討を重ねている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価作成には、ホーム長・管理者を中心として全職員で取り組んでおり、客観的な視点で事業所の取り組みを確認する等、サービスの向上に向けての積極的な姿勢が伝わる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	ホームの状況報告等がなされ、地域からも町内会の後継者不足等、地域の課題についても議論があり、充実した内容で開催されている。家族会代表・町内会長・長寿会会長・民生委員・成年後見人・消防署職員等、多様なメンバー構成があり、詳細な記録からは活発な意見交換が行われていることが確認できる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
重点項目	家族とのコミュニケーションを大切に、常に問いかけるよう努めている。玄関に「ご意見箱」を設置しており、切手・宛名付きの封書を準備し、また便りとともに送付する等、家族の意見を積極的に聴けるよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており、地域行事への案内があり積極的に参加している。またホームでの行事を掲示板で案内してもらい、近隣住民の参加を得ている。昨年1年かけて先生と話し合い、高校生の社会生活学習活動として週2回の来訪があり、よき話し相手として、また職員の手伝い等に活躍している。地域の高齢者支援についても、運営推進会議にて話し合いを行い、取り組みが始まっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業理念を掲げており、「たんぽぽの家」運営理念として「生の尊厳」「自立の支援」「日々の研鑽」と掲げている。また「たんぽぽの願い」の中でも、地域の中での「安心して暮らせる我が家」となるよう、具体的に方針を示している。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内の玄関等、目に付きやすい場所に掲示している。日々の入居者の方々とのかわりの中で、対応や言葉かけに反映されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域行事への案内があり積極的に参加している。またホームでの行事を掲示板で案内してもらい、近隣住民の参加を得ている。昨年1年かけて先生と話し合い、高校生の社会生活学習活動として週2回の来訪があり、よき話し相手として、また職員の手伝い等にて活躍している。		地域の独居高齢者や認知症高齢者への支援について、運営推進会議において話し合いが行なわれている。行事参加を呼びかけるなどの働きかけが行なわれており、今後も継続していく意向がある。関係者の協力も得ながら、情報発信も含めた地域における福祉拠点として取り組みが行なわれている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は定例会等で検討し、1つ1つ丁寧にサービスの向上につなげていることが確認できる。自己評価作成には、ホーム長・管理者を中心として全職員で取り組んでおり、客観的な視点で事業所の取り組みを確認する等、サービスの向上に向けての積極的な姿勢が伝わる。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告等がなされ、地域からも町内会の後継者不足等、地域の課題についても議論があり、充実した内容で開催されている。家族会代表・町内会長・長寿会会長・民生委員・成年後見人・消防署職員等、多様なメンバー構成があり、詳細な記録からは活発な意見交換が行われていることが確認できる。		

グループホーム たんぽぽの家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携	運営上の相談等は、地域包括支援センターに連絡している。夏祭りや花見等、ホームでの行事の案内を行い、参加・交流への働きかけを行なっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、成年後見制度を活用している方がおり、定例会等において定期的に研修を実施し、職員全員の理解を深めている。また運営推進会議において成年後見人を務める方に制度について説明してもらうなど、地域への情報発信も行っており、充実した取り組みがある。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告	家族来訪時には、状況報告や金銭管理についての確認を行なっている。「心をひとつに」というたんぽぽ便りを季節毎に発行し、日々の暮らしの様子や行事案内・報告を写真とともに紹介している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	○運営に関する家族等意見の反映	家族とのコミュニケーションを大切にし、常に問いかけるよう努めている。玄関に「ご意見箱」を設置しており、切手・宛名付きの封書を準備し、また便りとともに送付する等、家族の意見を積極的に聴けるよう取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	○職員の異動等による影響への配慮	離職は少なく、長く勤務している職員が多いため、本人・家族はもとより職員間の安心にもなっている。家庭の事情等により、やむを得ず離職が発生した場合には本人から事情を説明し、ベテラン職員による十分な配慮が行なわれている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重	職員採用時には、「明るく、元気な方」「高齢者が好きな方」を重視している。現状として離職はほとんど無く、働きやすい環境づくりの成果ともいえる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員にとても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム たんぽぽの家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権教育については、職員全員が共有するできことであり、必ず外部研修に参加し、伝達研修により周知徹底している。身体拘束や高齢者虐待防止に関する取り組みも充実しており、職員のストレスケアについても配慮している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政・社会福祉協議会・グループホーム協議会等の研修計画を参考にして、職員の参加を促しており、研修報告書による伝達が行なわれている。ミーティングにおいても、内服介助・介護ベッドの使用法・不適切ケアの事例検討・接遇等、充実した取り組みがある。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、研修会には積極的に参加している。相互訪問や意見交換会への参加により、職員の育成等サービスの向上につなげている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や入院先等へ訪問し、少しずつ馴染みの関係となるよう取り組んでいる。家族とともにホームへ来てもらい、雰囲気に馴染んでもらいながら安心して入居できるよう、個別に柔軟に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ時間をともに過ごす中で、達成感をともに味わい、感謝の言葉をお互いにかけてながら、入居者の心の動きに寄り添えるよう心がけている。入居者より「手伝おうか」と職員に問い掛ける姿もあり、支えあう関係性が伝わってくる。		

グループホーム たんぽぽの家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私の気持ちノート」を個人別に作成し、入居者の言葉や職員が気づいた事を記録し共有している。何気ない会話の中から本人の全体像に近づけるよう取り組んでおり、1つ1つ丁寧に積み重ねている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族も意向を確認し、職員・医療関係者等の意見を反映させながら、本人本位の計画作成に努めている。アセスメントから計画への流れ理解しやすく、また介護記録との連動性も確認できる。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録に詳細な記載がなされており、入居者の心身の状況が具体的にわかりやすく記入されている。状況の変化に応じて、随時見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や受診介助の際には、同法人の介護タクシーを低料金で利用することが出来、また地域の方々(ボランティア・民生委員・学生等)の協力を得られる体制がある。個別の外出支援を日常的に行なっていきたいとの意向がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切に、かかりつけ医への受診を支援している。一人ひとりの状況に合わせて、適切な医療が継続して受けられるよう支援している。		

グループホーム たんぽぽの家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、本人や家族の意向を確認し、ホームとして対応できるケアを検討している。今後については、入居者・家族・医療関係者・職員等にて話し合いを重ね、本人・家族の安心となるよう取り組む意向である。		昨年より、重度化や終末期の支援について、本人・家族の意向に出来る限りそえるよう検討を重ねており、研修にも参加している。医療機関との連携等課題もあり、運営推進会議や家族会等の機会も活用し、大切な課題として継続した取り組みに期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の対応や声かけが、入居者の尊厳を損ねる事のないよう日常的に確認している。個人情報の取り扱いについては細心の注意を払い、法令遵守に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状況に配慮しながら、その日の希望を大切にした支援に努めている。一人ひとりの入居者の方に、しっかりと向き合えるよう、個別の外出の機会等を充実させていきたいと考えている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から買い物・調理まで、全て事業所で行なっており、行事の際も職員の活躍がある。買い物に同行してメニューを一緒に考えたり、調理の下ごしらえを手伝ってもらっている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日の設定はあるが、希望や状況に応じて柔軟に対応している。入浴されない場合には清拭等にて対応し、無理強いとならないようにしている。毎日足浴を行なっている。		

グループホーム たんぽぽの家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣りや洗濯物を干したりたたんだり、また調理の下ごしらえ等、個々の力を発揮する場面づくりを支援している。生活歴や趣味等の把握により、一人ひとりに合わせた個別のレクリエーションを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前には境川公園があり、体調や天候にあわせて散歩や日向ぼっこに出掛けている。また知人・友人に会いに行ったり、買い物や馴染みの場所に出掛ける等、個別の支援も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や庭に面した窓を施錠せず、散歩に出掛けたり、庭での洗濯物干しや草花の観賞など、安全面に充分配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民の参加・協力を得て、年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施している。通常時の連絡網とは別に緊急時の連絡網を整備し、避難場所も確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食確認し、記録している。水分摂取量については、体調不良時や医師の指示がある場合以外は記録していないが、1日8回程度は摂取する機会を確保しており、大まかな把握は行なわれている。職員により献立が作成されており、材料を量りながらカロリー計算を行なっている。定期的に専門的アドバイスを受ける機会も確保して欲しい。		

グループホーム たんぽぽの家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○ 居心地のよい共用空間づくり	定期的に訪れている北九州中央高等学園の先生・生徒との協同作業による、季節にあわせた作品等が飾られている。日本家屋の落ち着いた雰囲気、開放感のある大きな窓、日向ぼっこが出来る廊下など、和みのある空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室入り口には職員によって描かれた似顔絵と表札が掛けられており、室内には毎月入居者によって手作りされているカレンダーが貼られている。自宅より馴染みの物が持ち込まれ、レイアウトも本人の希望により決められており、それぞれの思いにあわせた部屋づくりがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			